令和6年度　江戸川区立第六葛西小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子〇思いやりのある子〇やりぬく子〇元気な子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	〇児童一人一人、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 〇主体的に考え活動し、他者と豊かにかかわる子供 〇自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの本校の現状	成果	ICTを活用した授業実践を３年間行い、教師・児童ともにICT活用能力がより一層向上した。	課題	学習の基礎基本の定着や思考力、表現力の向上を図る。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	**・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実**	・習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・新聞記事を使った読解力向上教材を活用し、読解力向上を目指す。 ・東京ベーシックドリルテストを４月、９月、１月に実施し、確実に算数の学力向上を図る。 ・各学期１回の江戸川っ子study week！の実施を通して、家庭でのミライシードの活用を推奨する。 ・外部委託による放課後補習教室（２～６年）を週１回実施する。 ・年３回の校内授業観察他、校内研修や月１回程度の若手教員育成研修（フレッシャーズの会）を実施する。 ・年8回の区小教研や各種研究会での学びを校内で交流する。	・児童質問調査において「国語の学習内容はよく分かりますか」「算数の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答を８３％以上にする。 ・東京ベーシックドリル診断シートの正答率（２～６年）を７０％にする。 ・保護者アンケート「先生たちは、わかりやすい授業を目指し、授業を工夫している。」の肯定的評価を90%にする。	A	B	B	・児童質問調査において「国語の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答は、８６．８％と目標を達成したが、「算数の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答は７７.3%と目標を下回った。 ・２、３、６年生は、東京ベーシックドリルテストを４月と９月に実施した。４、５年生は、江戸川区学力定着度調査を４月、７月に実施した。今後も定期的に調査を実施し、算数の学力向上を目指す。 ・東京ベーシックドリル診断シートや江戸川区学力定着度調査の正答率は、数値目標に届かなかったものの、一部学年で上昇傾向にある。	A	・少人数で別れた算数の授業では、積極的に手を挙げる子もいて、おいて行かれる様子もなく良い雰囲気だと思いました。	B	・定期的に学力調査を実施し、本校児童の算数科における定着度を把握をしながら学力向上を目指すことができた。 ・東京ベーシックドリル診断シートや江戸川区学力定着度調査の正答率目標値７０%を７%超えた学年もあるが、４～10%程度届かなかった学年もある。 ・校内研究や授業観察の際には、主体的で協働的な学びを意識した授業作りを行ったため、教師の授業力が向上した。	B	・タブレットに関しては習熟している印象です。その分、全体的に、学習の基礎である字を書くこと（漢字の理解など）が弱くなっている印象がありますので、原点である鉛筆やノートを作った学習が増えると良いかなと思いました。	・習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・朝自習を中心として、東京ベーシックドリルに取り組む機会を確保する。 ・新聞記事を使った読解力向上教材を効果的に活用し、読解力向上を目指す。
	〇読書科の更なる充実	・蔵書分類の割合の最適化を目指し、近隣の区立図書館やPTAの図書ボランティアと連携し、図書室の環境整備を継続して行う。 ・保護者や外部機関との連携を図りながら、朝読書や読み聞かせ、読書科の授業などを通し、読書の楽しみや書誌による調べ学習のよさを見出せるよう指導する。 ・読書科ノートを活用する。 ・江戸川調べる学習コンクールに向けて、情報の分析や整理の仕方、自分の考えを表現する方法を指導する。 ・区立図書館との読書科連携授業を各学年で年１回実施する。	・90%以上の学級で江戸川調べる学習コンクールに向けて、読書科ノートを活用した授業を行う。 ・読み聞かせボランティアと協力し、すべての学級で読み聞かせを月に１回行う。 ・図書整備ボランティアと協力して月に２回学校図書館を整備する。 ・区立図書館職員によるブックトークを各学年年間１回以上実施する。 ・読書月間に教職員による本の紹介を行う。	A	A	B	・どの学年も朝読書に取り組むことはできたが、１学期の読書科授業については５・６年生しか実施することができなかった。２学期は各学年で読書科授業を計画的に推進できるようにしていく。 ・読み聞かせボランティアと協力し、すべての学級で月１回の読み聞かせを行った。 ・図書整備ボランティアや区立図書館職員と連携し、図書室の整備や作業を行った。 ・１０月の読書月間に向けて、教職員によるおすすめの本や紹介文を図書室に展示し、全学年で西葛西図書館職員によるブックトークを実施する計画や準備を進めた。 ・教職員による本の紹介で展示された本が貸し出されている。	A	・読み聞かせを子供たちがキラキラした表情で聞いてくれました。私も楽しかったです。	A	・江戸川っ子読書科コンクールに向けて、全学級で読書科ノートを活用しながら、図書を使った探求的な活動を行った。自ら立てた問いに必要な情報の収集、分析、整理、それに対する自分の考えを表現する経験が乏しいので、引き続き指導を続ける必要がある。 ・読み聞かせボランティアによる月1回の読み聞かせを行った。 ・図書整備ボランティア「ろくっこぶっく」や区立図書館職員と連携し、図書室の整備を行った。 ・１０月の読書月間期間に、教職員によるおすすめの本や紹介文を図書室に展示したり、全学年で西葛西図書館職員によるブックトークを実施したりした。	A	・読書科の授業を、初めて参観しました。調べてまとめて、タブレットを使って発表して、友達の発表を聞いて付箋に感想を書いて、別のグループとも発表し合ってと、充実した内容でした。それぞれ興味を持つテーマが違って、まとめ方も色々で、参観していて楽しかったです。これからも、読書科を続けていて欲しいです。	・区立図書館職員の勤務日が木曜日以外に変更になる。区立図書館職員と図書整備ボランティア「ろくっこぶっく」が連携して図書室の整備を行っていくことができるようにしていく。 ・読書月間に展示した「先生方のおすすめの本紹介」は、図書室内と２階階段踊り場に１ヶ月間展示している。展示が始まった際に、朝会や放送等で児童へ周知する。 ・朝読書や読書科の時間に、児童同士でおすすめの本を紹介する時間を設ける。
体力の向上	**〇運動意欲・健康・体力の向上に向けた取組の実施・充実**	・体力向上への意欲付けと運動習慣の定着を図るため、縄跳びを活用した取り組みを休み時間に実践する。 ・体力づくり重点月間を実施する。 ・運動会の実施方法を改善していく。	・なわとびウィークを学期に１回ずつ、計３回（６月・１０月・２月）実施する。 ・６月実施の体力テストにおいて、平均値を都平均と同水準にする。 ・運動会に関する保護者や外部関係者の肯定的評価を９０％以上にする。 ・運動会特別時程を２週間から３週間に増やし、健康面・体力面での負担を軽減する。	A	A	A	・１学期のなわとびウィークは実施した。９月はたてわり班活動と合わせて、他学年と交流しながら長縄に取り組む予定である。また、３学期は１学期と同じように各自短縄を予定している。 ・運動会の特別時程を３週間にしたことで、過度な負担がなく練習を進められた。 ・１２月から１月にかけて「持久走月間」を予定しており、児童の体力向上につなげる。	A	・運動会では、子供たちのいきいきとした楽しむ姿、集中した表情が見られ、うれしい気持ちで見ておりました。	A	・今年度から始まった「なわとびWeek」の取組により、各学期に全校児童でなわとび運動をし、体力の向上を図れた。 ・「なわとびWeek」の取組の中で、２学期はたてわり班活動と連携し、班ごとに長縄跳びを行った。 ・１２月から１月にかけて「持久走月間」を実施し、児童の体力向上につなげた。 ・「体力テスト」は実施済み。その結果を基に、児童の実態に合わせた体力づくりを進める。 ・今後の体育の授業でも、体を動かすのが楽しいと感じる児童を増やしていく。	B	・体育の授業でチームで話し合う事は大切だが、ホワイトボードや、タブレットを使用して考えている時間が長すぎると感じました。純粋にもっと思いっきり運動する時間に充ててほしいです。	・体育の授業でタブレットを使った活動が増えているのは事実であり、それによる効果があることも認められている。活動量の確保とタブレットの効果的な活用を両立させていくことが大切である。この二つの活動をバランスよく行えるように体育的行事委員会や各学年会で共有し、改善していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	**・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導、各教室のレイアウト等の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実**	・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画やその評価について、保護者と共有し、支援の改善を図る。 ・特別支援教育委員会を年に９回実施する。 ・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカーとの連携を図る。 ・特別支援教育校内研修を年１回実施し、支援について共通理解を図る。 ・副籍交流を実施する。	・配慮、支援を要する児童の把握を１００％にする。 ・特別支援教育委員会の年９回実施を達成する。なお、必要があれば臨時校内委員会を実施する。 ・特別支援教育校内研修の年１回実施を達成する。 ・手紙による学籍交流１名、直接交流２名を行う。	A	B	A	・配慮、支援が必要な児童について、担任と特別支援コーディネーターが連携し、保護者に対して支援の提案等をした。 ・特別支援教育委員会を４回実施し、また特別支援教育研修も７月に行い、校内で支援や合理的配慮について情報共有し、理解を深めた。 ・副籍交流も、間接・直接交流ともに実施した。	A	・学校公開では、一人一人の子に対する先生の気配りが感じられました。	B	・数値目標は全て達成することができた。また、支援が必要な児童にことばの教室や特別支援教室の利用を促し、５名の児童が利用開始となった。	B	・子どもの発達などで先生方から何か子どもの発育などでおかしいなと思ったり、気付きがあれば療育など進めて積極的に話してほしいです。	・支援が必要と思われる児童を把握し、担任・保護者とも相談・面談し、SCや都の心理士のアドバイスも伝えたが、まだ保護者の理解を得られず進展しない児童がいる。今後も学級内で出来る支援を継続しつつ、よりよい支援が受けられるよう担任・保護者と連携していく。
不登校・いじめ対応の充実	**・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用**	・毎週金曜日生活指導夕会を行い、児童の情報や対応、生活指導連絡協議会の報告などを共有する。 ・年３回の児童アンケートを実施し、活用する。 ・いじめ対策委員会を年３回以上実施し、組織的に対応する。 ・いじめや不登校に関する情報ファイルを作成し、日常的な情報の共有を行う。 ・hyper-QUの実施により児童の人間関係を把握し、学級経営の充実などに活用する。 ・日常的なSSWや児童相談所など、他機関との連携を図る。 ・学年だけでなく、対策委員会や、学校全体で生活指導上の問題点について対応していけるよう校内体制を整える。	・毎週金曜日に生活指導についての校内連絡会を実施する。 ・年３回のいじめ防止のアンケートを実施し、いじめ発見の機会を増やし、いじめ防止に努める。 ・不登校については、関係諸機関とつながりのない児童数を０にする。 ・いじめに関する調査において未解決の事案を10%以下にする。 ・保護者アンケート「学校は、子供たちの生活の様子を見守りながら、いじめや不登校などがない学校にするために取り組んでいる。」の肯定的評価を８０%以上にする。 ・ふれあい月間（６月、１１月）と２月の３回に分けて保護者に向けた生活指導だよりを作成し、いじめや不登校についての理解を広めていく。	B	B	B	・いじめ調査とその後の指導、生活指導主幹による研修により、教員のいじめ防止に対する見識が深まった。 ・児童のいじめ防止の意識が向上した。 ・不登校児童について、SSWや児童相談所などの関係諸機関とのつながりをもつことができた。 ・養護教諭とも連携しながら児童支援にかかわる情報提供等を行った。 ・バーチャル江戸川利用登録児童が4名いる。	B	・学校公開では、困っている子も周りに助けを求めることができていて、周りの子も教えてあげていて、素敵だなと思いました。	B	・校内での研修等を通じて、いじめ問題について理解を深めることができた。 ・保護者アンケートの項目については７７%、数値目標に到達はしなかったが、生活指導だよりなどで、情報発信を行ってきた。 ・バーチャルえどがわサポートルームや、SSW、SC等につなげていくことができた。	B	・いじめ等は今は身近にないと思っていますが、配慮が必要な児童への取り組み等がどんな形でなされているのかあまり知る機会がないので、そういう場を作っていただけると、より安心感があります。	・いじめ対策委員会内での役割や対応についてもう一度見直しを行い、法に基づいた適切な組織対応が行っていけるよう確認する。また、保護者にも同様に発信していく。 ・「HyperQUの活用」「不登校対応」「いじめ未然防止」などの研修を継続して行っていく。 ・今後も不登校児童がどこにも関わりのない状況を作らぬように保護者、学校、関係機関との連携を図り、対応していく。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	**・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実**	・HPやtetoruを活用しながら、学校だより、学年だより、その他学校からのお知らせを配信する。 ・学校日記のページに学校の様子や給食の献立を毎日載せる。 ・学校説明会のお知らせを載せる。 ・学校行事の変更や学年行事などについては、決定次第、情報発信できるように努める。	・保護者アンケート「学校だよりやホームページなどで情報を発信している。」の肯定的評価を９５%以上にする。	A	B	B	・ホームページに加え、tetoruを活用して、学校だより、学年だより、その他学校からのお知らせを配信することができた。 ・おたよりを児童がいつでも見られるようにしてほしいとの要望を受け、タブレット端末でもお便りを配信した。	B	・運動会関連の手紙がばらばらと配信されるので、情報整理するのが大変だった。	B	保護者の要望を受け、tetoruだけでなく、タブレット端末からもお便りを配信できたのは良かった。	A	テトルでの迅速な配信やペーパーレス化がとても便利でありがたいです。いつもご指導ありがとうございます。	・「学校だより」と「学年だより」を一本化し、重複する情報がないようにし、分かりやすい情報発信に努める。
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者や地域、学校評議員などからの日常の連絡や個人面談、運動会・学校公開・学習発表会などの行事からアンケートを行う。 ・アンケートの結果をもとに地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。	・保護者アンケートで各項目の肯定的評価を８０%以上にする。	A	A	B	・運動会や学校公開では、Formsを活用したアンケートを行い、肯定的な感想をいただくことができた。	A	・六小は、今の時代に合ったやり方にアップデートしている対応の早さが素晴らしいと思います。	B	・一部、80%を下回る回答結果があった。保護者にも取組状況が分かるように内容を工夫する必要がある。	A	・学習発表会では番号を事前に抽選してもらうことで無駄に並ぶことがなく大変助かります。いろいろと工夫して運営していただき感謝しております。	・今後も「例年通り」を通例とするのではなく、地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。
特色ある教育の展開	**・PTA活動や地域との連携を通した心豊かな児童の育成**	・サマーキャンプ、ろくっこまつりなど、PTAと協力して開催する。 ・ネパール姉妹校協力委員会を定期的に開催し、ジャナジョティ小学校の児童を招待するなど、様々な交流を図る。	・PTA行事で年２回以上の教員参加を目指す。 ・ネパール姉妹校協力委員会を学期に一度開催する。 ・50周年記念式典に合わせて11月初旬に児童集会や授業中の直接交流を図る。	A	A	B	・ほとんどの教員がPTA行事に参加し、保護者との協力的な関係を構築しようとしている。 ・月１回の周年委員会を通して、ネパール集会や式典に向けた準備を計画的に進められた。	B	・先生方だけに負担が偏らずに、協力し合えればと思います。	A	・PTA行事で年２回以上の教員参加ができた。 ・ネパール姉妹校協力委員会との連携の下、５０周年記念式典を成功させることができた。	B	・PTA活動がボランティア制になり、逆に都合をつけて参加を考えることもありました。 ・PTA改革も、内容を変える前に総会にかかるべきでした。 このままではPTAも子どもたちの楽しみも衰退していく一方です。	・PTA活動がボランティア制となったが、引き続き保護者と学校とで連携を図り、児童にとって充実した活動となるよう努める。
	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・SSSを効果的に活用する。 ・月１回定時退勤日を設定し、保護者に周知する。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議で話し合う内容の精選をする。 ・自動応答メッセージによる電話対応を実施する。	・毎月の勤務時間において、外在校時間４５時間以上の教員を３名以内にする。 ・会議の資料をクラウド上に保存する。 ・会議にかける時間を平均４０分以内にする。 ・年間を通して同じ時刻に自動応答メッセージが流れるよう設定し、その時間を保護者に周知する。	A	A	A	・学校だよりや学年だより、その他のお便りのペーパーレス化が実現できた。 ・会議の内容や進め方を工夫することで会議時間の短縮につながった。 ・留守番電話の対応時間が勤務時間と一致している。	A	・デジタル化をどんどん推進して、先生方の業務を減らしていただきたいです。	A	・会議資料のペーパーレス化は定着している。 ・勤務時間外での電話対応を自動応答メッセージとすることで授業準備時間の確保につながっている。	B	・学校側はテトルの利用でかなり業務改善は進んだと感じていますが、親の負担は半分程度しか減っていません。 親も先生にデジタルでやり取りがしたいのです。既読スルーで構いません。	・会議時間の短縮については、事前に検討事項を明記の上資料を配布するなどして、円滑な協議が進められるように努める。